

平成29年度 学校評価計画

小美玉市立小川南中学校 校長 皆藤 正造

1 学校教育目標

これからの時代を切り拓く たくましい生徒の育成

2 目指す学校像, 児童・生徒像, 教師像

学校像	○ 生徒と教職員が笑顔で生活できる学校
児童・生徒像	○ 知 共に学び合い 新しい価値を創造する生徒 ○ 徳 不屈の精神と真心をもち 友情をはぐくむ生徒 ○ 体 たくましく丈夫な体をもち 健康に生きる生徒
教師像	○ 教職に対する使命感, 強い情熱をもった教師 ○ 教育の専門家としての確かな力量をもつ教師 ○ 豊かな人間性, 社会性, 常識と教養を備えた教師

3 学校の現状

- 本校は11学級(特別支援学級2), 生徒数276名の中規模校である。平成29年4月から旧県立小川高校跡への校舎移転を行い, 「新設小川南中学校」を創造している。
- 生徒は, 大変素直で落ち着いた生活態度であり, 生徒同士, 生徒と教師との良好な関係が築かれている。生徒は授業に真剣に取り組んでいるが, 協働して学ぶ態度や生徒自身が主体的に学ぶ授業展開において課題が見られる。不登校生徒は減少傾向にあるが, 全職員共通理解と関係機関との連携のもと, 個別の支援に当たっている。
- 保護者・地域は, 学校教育に対して協力的な家庭が多く, 保護者の学校行事への参加率は高い。学校評価に関して建設的な意見も多く寄せられる。

4 前年度の成果と課題

- 学校行事や生徒会活動などを通して生徒の主体性を育成することができている。生徒の自治的な活動をさらに促進させ, 自立した生徒を育てていくことが課題である。
- 基礎的・基本的な学力の定着が少しずつ見られてきている。今後更に, 生徒の話合い活動等を生かした深い学びのある授業の進め方を研修し, 改善することが必要である。また, 授業で学んだ学習内容を定着させるための練習時間や家庭学習の質(内容)の向上と量(時間)の確保に努めたい。
- 体力向上と健康な体づくりについては, 体力テストの結果分析等をもとにした運動の習慣化や栄養教諭を中心とした効果的な食育の推進を図っていきたい。

5 組織目標

番号	内 容	実施期間			
		29			
1	教育キーワード 〔創造〕 新たな自分づくり, 学校創り ～ 一人を伸ばす教育 ～	○			

平成29年度 学校自己評価書

小美玉市立小川南中学校 校長 皆藤 正造

1 今年度の取り組みの概要

- 1 特別活動を中心に生徒の自主的活動を推進して、主体的・創造的に活動する生徒の育成に努める。
- 2 積極的な生徒指導を進めることで、生徒の社会性を高め、「生きる力」を育成する。
- 3 「確かな学力」をつけるための、成就感を味わうことができる授業を構築する。
- 4 特別な配慮を要する生徒の健全な育成を目指し、支援体制を構築する。
- 5 学校・家庭・地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりに努める。
- 6 服務規律の確保に努め、明るく潤いのある職場づくりを推進する。

<達成度 A:十分に達成 B:おおむね達成 C:達成せず D:課題が残る>

◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1	自主性・創造性を育てる教育活動の推進		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
1 生徒会活動や学校行事に生徒の意見を反映させ、生徒が自主的に学校を改善する資質を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会が生徒主体の企画・実践を行う。 学級会、生徒会意見箱などにより意見を広く求め、活動に生かす。 委員会活動や学校行事で、新しい取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会本部や各実行委員会を中心に学校行事を充実させることができた。学年の枠を超えた「縦割りグループ」での体育祭や委員会活動において大きな成果があった。 生徒会本部主催で生徒互選による善行生徒等を表彰する「南リーダー」の取組により生徒の自主性が育っている。 	A
2 道徳の授業を要として、各教科・領域等学校教育全体を通して、人権教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開で道徳の授業を積極的に公開する。 生徒のボランティア活動で新しい活動を行う。 特別活動において人権について考える活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業を計画的に実施し、学年学級の実態に応じた内容を扱い、生徒の心情に訴える授業を行った。 人権教育の授業づくりや資料について話し合いができるようになってきている。道徳教育や人権教育に対する職員の研修意欲の高まりが見られる。 	A
3 互いに磨き合い伸ばしあえる心の居場所としての学年・学級づくりを推進し、不登校生徒を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 「生活ノート」を通して生徒理解と信頼関係づくりを深める。 いじめアンケートを毎月実施し、早期発見・早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員がそれぞれの役割で生徒理解と信頼関係づくり、小さな変化のキャッチに努めた。 不登校の改善に向かっている生徒もいるが、新たに不登校になった生徒も見られ、不登校の解消や新たな不登校生徒を作らないことが大きな課題である。 	B

◎ 組織目標 2 についての具体的な取り組み

組織目標 2	学力向上を目指し、共に学び合う授業づくり		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
1 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善をする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中に、生徒が教え学び合う場面と練習の時間を設定する。 各教科で付けたい力を明確にした指導を工夫する。 T・Tや少人数指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学や理科を中心にT・Tや課題別の少人数指導や生徒に付けたい力を明確にした授業改善を推進できた。 教科部員会やT・Tの打合せの十分な時間確保が課題である。 	B
2 学習意欲を高め、理解の定着を図る。さらに、5教科の勉強が好き、という生徒の割合68%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の進め方」「学習計画表」により家庭学習の習慣化を図る。 ICT機器を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の家庭学習ノートや計画表等を、丁寧に添削をしたり称賛したりしている。生徒の学習意欲につながっている。 ICT機器を積極的に活用した授業を展開したことが、思考の深まりや基礎 	A

		知識の定着、協働的な学びにつながっている。 ・5教科(国・社・数・理・英)の勉強が好き、という生徒の割合が66.5%(1学期末)から69.2%(2学期)になった。	
3 健康・安全教育の充実と体力の向上を図り、体力テストではA+Bの割合55%を目指す。	・運動の楽しさを実感したり、体力の向上を目指したりするため、計画的な外遊びを実施する。 ・学年や学級対抗の大縄大会等への取組を充実させる ・運動部でボランティア指導者を活用する。	・計画的・継続的な指導により、生徒の体力の向上が見られる。体力テストA+Bの目標値には届かなかったものの昨年度51.0%から54.3%へと改善がみられる。女子の体力が優れている。	B

◎ 組織目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3		生徒一人一人が輝く活力ある学校づくり		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度	
1 保護者や地域に学校のことをもっと知ってもらい、協力体制を強める。	・学校だよりの発行と学校HPの更新を進める。 ・学校支援ボランティアを学校教育全般に活用する。 ・学校環境整備ボランティア団体「南中サポーターズ」を活用する。	・学校だよりの発行は44号になる(2/14現在)。合わせてHPは毎週3回程度更新を行っている。掲載内容も充実し、本校の教育活動を理解していただく大きな役割を果たしている。 ・総合的な学習において学校支援ボランティアや外部講師の活用を図った。	A	
2 安全・安心な学校づくりを進める。	・校内の日常点検と毎月の安全点検を実施する。 ・新校舎移転に伴いよりよい教育環境整備を目指す。	・日常点検と毎月の安全点検を実施し、改善に努めた。 ・恵まれた教育環境となった。 ・職員のコンプライアンス意識の高揚が見られる。	A	
3 一人一人のニーズに応じた指導を充実させ、特別支援教育の体制を確立する。	・個別の指導計画、教育支援計画の作成と改善を図る。 ・発達障害に関する研修を行い、職員の理解を深める。 ・関係機関や専門家と連携した支援を行う。	・特別支援教育研修を実施し、個別の指導計画等を作成し、運用した。関係機関と緊密な連携をとり、適切な支援に努めた。生徒の実態に合わせてさらに研修していく。 ・特別支援教育集合指導訪問会場校として、授業を公開し、研修のよい機会となった。	B	

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 組織目標1の「自主性・創造性を育てる教育活動の推進」については、学校行事や生徒会活動などを通して生徒の主体性を伸ばさせることができました。次年度も生徒の自主的な活動を促進し、さらに自立した生徒を育てたい。
- 組織目標2の「学力向上を目指し、共に学び合う授業づくり」については、付けたい力を明確にした授業改善を推進することができました。さらに、次年度は、生徒の学習意欲を高める学習内容と課題の明確化や深い学びにつなげる主体的かつ対話的な授業にできるよう、さらに研修を重ね、生徒の基礎学力の定着と学力向上が課題である。
- 組織目標3の「生徒一人一人が輝く活力ある学校づくり」については、学校からの情報発信など「開かれた学校づくり」を進めることができました。不登校解消や特別支援教育は、本校にとって重要な課題である。それぞれの実態に応じた支援体制を全職員で共有し、ニーズに応じた取組を進めていくことが必要である。

3 保護者や地域への皆様へ

平成29年4月から旧小川高校への校舎移転により、新校舎での学校生活がスタートしました。保護者・地域・各分野の関係者の皆様にお力添えをいただきながら、生徒たちは新しい環境で充実した学校生活を送っています。今後も学校教育目標「これからの時代を切り拓くたくましい生徒の育成」に努めてまいります。学校公開週間や体育祭、あしのみ祭など、生徒の真剣に学ぶ様子や主体的・創造的に活動する生徒の様子を直接ご覧いただける機会もございます。ぜひお出かけいただき、皆様の生の声をお聞かせいただけましたら幸いです。本校の教育活動や生徒の様子や各種たよりについては、ホームページでも紹介・掲載しております。ご覧いただき、引き続き、本校の教育活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。